

創業から一〇〇年を超え、福岡の駅やマンション、商業施設等多くの建物に関わる「中村タイル商会」。前回までは創業者と二代目がそれぞれ実子に恵まれず、順風満帆な事業の裏で、後継者を見つめる苦勞を強いられた物語を聞いた。最終回の今号では、現・四代目社長の就任とこれからの展望をお聞きしよう。

創業者から数えて、二代目、三代目と養子縁組で後継者を選んできたので、三代目である父に男の子が生まれたときは、一族を挙げて大喜びだったと聞いています。それが、私です（笑）。とはいえ、小さいころは特にそういうプレッシャーも聞かされておらず、好きな道を選ぶよう言われていました。ただし、なんとなく家業には興味があつたので大学も入学時は建築学部を選んだのですが、学ぶうちに他に興味がわいてきて、機械工学科に学部変更してしまつたんです。当然卒業時にはそちらに興味が移っていましたから、家業ではなく東京でプログラマーとして就職しました。それまで実子がいなくて悩み続けていた一族からしてみれば、やつと子どもが生まれたのに結局は違う仕事を選ぶなんて、相当落胆したでしょうね。それまで私は、家業のそういう話を全く聞いたことがなかったので。

ただ、祖母が入院してお見舞いのために帰省していたとき、祖母と父の会話が聞こえてきました。「この会社はだれが継ぐとね？」と聞く祖母に、「まだ決まっちゃおらん」と寂しそうに答える父の声を聞いて、初めて「どうしたものかな」と思うようになりました。古株の社員たちの中には、小さいころからお年玉をもらっていた人

などもあります。その人たちが定年を安心して迎えられるために、私がすべきことがあるのかもしれないと。

高校を卒業してから実に一四年ぶりくらいに戻ってきて、会社を継ぐ決意をしました。技術的なことは社員たちに教えてもらいながら、一〇〇年続いてきたこの会社をさらに一〇〇年先までつなぐ責任を請け負うつもりです。まず、始めたのは新しい若手の育成。創業者が当時としては画期的な「人材育成部門」を作ったように、私も若い技術者を少しずつ育てて、次の一〇〇年のタスキをつないでいきたい。昨年、今年と新卒社員を採用しましたが、高齢化しつつある職人の育成に力を注ぎたいと思っています。

文明開化、戦争、高度成長期、バブル、リーマンショック：さまざまな時代背景の中でタイルというひとつの商売を貫いてきた先代たちの想いを受け継いで、次世代にバトンが渡せるように、まだまだ精進していきたいですね。

（終わり）



■株式会社 中村タイル商会
早良区有田7・24・6
☎ 092・852・7328